２．見ることは百文に如かず

早く小水力事業の理解するには、「**見ることは百文に如かず**」と昔の人は良言った。しかし、その人は事業を進めたいのか、知識を得たいためか。事業者としてか、土木技術者か、電気・機械等の技術者かによって、見るところ違う、人集めでは成功しない。

見学してなに見て勉強したいのか、日程・費用等を事前に把握しておけば、見学効果があがる。

できれば見学先の、**詳細な施設の概要。経営状態、計画通りの電力量が出ているか。計画の反省事項。営業の状況などが分かる資料**が見学前に取り寄せればよいが、できなければ見学時説明を受けるか、資料を頂ければ好都合である。

私も、初めて発電計画を立てるため、先進県の県営発電所を見学して、多くの資料を得たり、大建ビルに駐留軍の仕事で関係した土木技術将校から、アメリカのＴＶＡ（テニシー河総合開発計画）の資料を取り寄せていただき仕事も捗った。

戦中・戦後後は良い技術新書はなく、**建設省・通産省のガリ版刷り**で、字も判明し難い手引書しかなかった。しかし、京大近くの**古本屋**では、３月近くになると卒業学生が家に帰る旅費稼ぎに売った良書があった。
しかし、その本は金では買えず、**自分の技術書と交換**で、本屋本の値打を見られ、その差　　額 をお互いに払い、本屋には手数料を払う時代も相当続いた。